

正誤表

63号の文章に、言葉足らずで誤解を生む表現、あるいは誤りがありました。以下のように訂正いたします。

p6 右列 1～4行目（印刷版、Web版とも）。

訂正前

症状改善傾向は、長期継続ができた人

この論文では、MMSEスコアがメマンチン使用前の9.7から2年後には6.3、5年後3.4、7年後2.9と、改善しているかのようなデータを示している。

訂正後

症状改善傾向は、長期継続ができた人

この論文では、ドネペジルやメマンチンが導入される以前に実施された海外のCERAD試験のデータから分析したMMSEスコアの変化（使用前10点から2年後に1.6点と急激に悪化）と比較して、MMSEスコアの低下が、メマンチン使用前の9.7点から、2年後には6.3点、5年後3.4点、7年後2.9点と緩やかであることから、症状の進行が食い止められているかのようなデータを示している。

p4 コラム その2 図1 の余白に以下を追加

（印刷版のみ：Web版は訂正不要）

参考：

1. Junqueira ed. Basic Histology 11th ed. 2005
2. http://www.kyoto-su.ac.jp/project/st/st14_06.html

p5 コラム その2 左列 2～4行目（印刷版、Web版とも）

訂正前

興奮性
の神経伝達物質はグルタミン酸やドパミン、ノルアドレナリン、
カテコラミン（セロトニンなど）や、アセチルコリンがある。

訂正後

興奮性
の神経伝達物質はグルタミン酸や、モノアミン（ドパミン、ノ
ルアドレナリン、セロトニンなど）、アセチルコリンなどがある。